

# 北海道浮魚ニュース

平成 16(2004)年度 12 号 (通巻 No.176)

2004 年 8 月 9 日

北海道立水産試験場

## ◎平成16年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報発表される

8月5～6日に塩釜市において、平成16年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議が開催され、予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

水産庁 URL: <http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>

### 【漁況予報】 (図1参照)

予測期間: 2004年8月中旬～12月

対象海域: 北西太平洋 (道東沖から常磐沖)

対象漁業: サンマ棒受網

魚体: 大きさは肉体長(≒体長)で表示し、便宜的に大型魚(29cm以上)、  
中型魚(24～29cm)および小型魚(20～24cm)と区分した

#### ① 来遊量

来遊資源量は**昨年を下回る**。

#### ② 漁期・漁場

初期の漁場はエトロフ島沖合となる。その後、道東の沿岸から暖水塊東側縁辺部に漁場が形成される。漁場の南下は例年並みで、三陸沖の初漁は9月下旬、常磐沖は10月下旬となる。

#### ③ 魚体

漁期前半は大型魚の割合が比較的高いが、**後半は中型魚主体の漁獲**となる。

## ＜解説＞

### ① 来遊量

6～7月に東北区水産研究所が中層トロールを用いて漁獲調査を行った結果から推定された資源量は、2001年から調査を継続している162°E以西の小型魚以上が236万トン(前年比147%)であった。一方、2002年から調査が行われている沖合の162°E～177°Wでの資源重量は84万トン(前年比16%)であり、両海域合わせた推定資源量は昨年を大きく下回った。

また、同上調査では6月下旬に150°～160°Eのロシア主張200海里水域南側で昨年より多くの漁獲があったが、釧路水産試験場が7月中旬に同海域で流し網調査を行った結果では、総漁獲尾数、流し網1反あたりの漁獲尾数ともに昨年を下回り、7月上旬にはすでに魚群の多くは北上したものと考えられた。

7月～8月上旬まで行われた漁期前一斉調査結果によると、岩手県水産技術センターが行った岩手県沿岸の流し網調査では過去4年で一番多く漁獲されたものの、宮城県水産研究開発センター、福島県水産試験場、茨城県水産試験場、千葉県水産研究センターによる調査では魚群の発見が少なかった。

以上のことから、昨年同様日本沿岸を北上した魚群は少なく、150°～162°Eでは昨年

に比べ資源量が多いものの、その沖合は少ない。従って、漁期前半は来遊量の増加が見込めるものの、後半は沖合からの漁場への来遊量は少なく、漁期を通しては昨年を下回ると判断される。

## ②漁期・漁場

現在道東沖の表面水温は高く、また暖水塊も存在するためこの海域の上層水温は高めで推移している。このため、初期の漁場はエトロフ島沖合となる。その後、道東の沿岸から暖水塊東側縁辺部に漁場が形成されると考えられる。

津軽暖流の東方への張り出しは平年並～やや強勢であるが、親潮第1分枝の張り出しは平年並～やや南偏し、魚群の南下を阻む暖水塊は見られないこと、黒潮系暖水の北限位置は南寄りでありサンマが南下する条件を満たしていることから、三陸沖(おおむね 41° N 以南)における初漁場は平年並(9月下旬)に形成されると予測される。その後常磐沖にも平年並の10月下旬から漁場が形成される。

## ③魚体

東北区水産研究所による漁期前調査の結果、大型魚の割合は 162° E 以西では 45.7% (尾数比) を占めていたが、162° E~177° W では9%と非常に低かった。推定資源尾数は 162° E 以西では大型魚が 131 億尾 (昨年, 98 億尾), 中型魚が 44 億尾 (同, 23 億尾) となり昨年を上回ったが、162° E~177° W の海域では大型魚が 15 億尾 (昨年, 262 億尾), 中型魚が 61 億尾 (同, 158 億尾) となり昨年を大きく下回った。

以上から、漁期前半は大型魚の割合が比較的高いが、後半は中型魚主体になると考えられる。

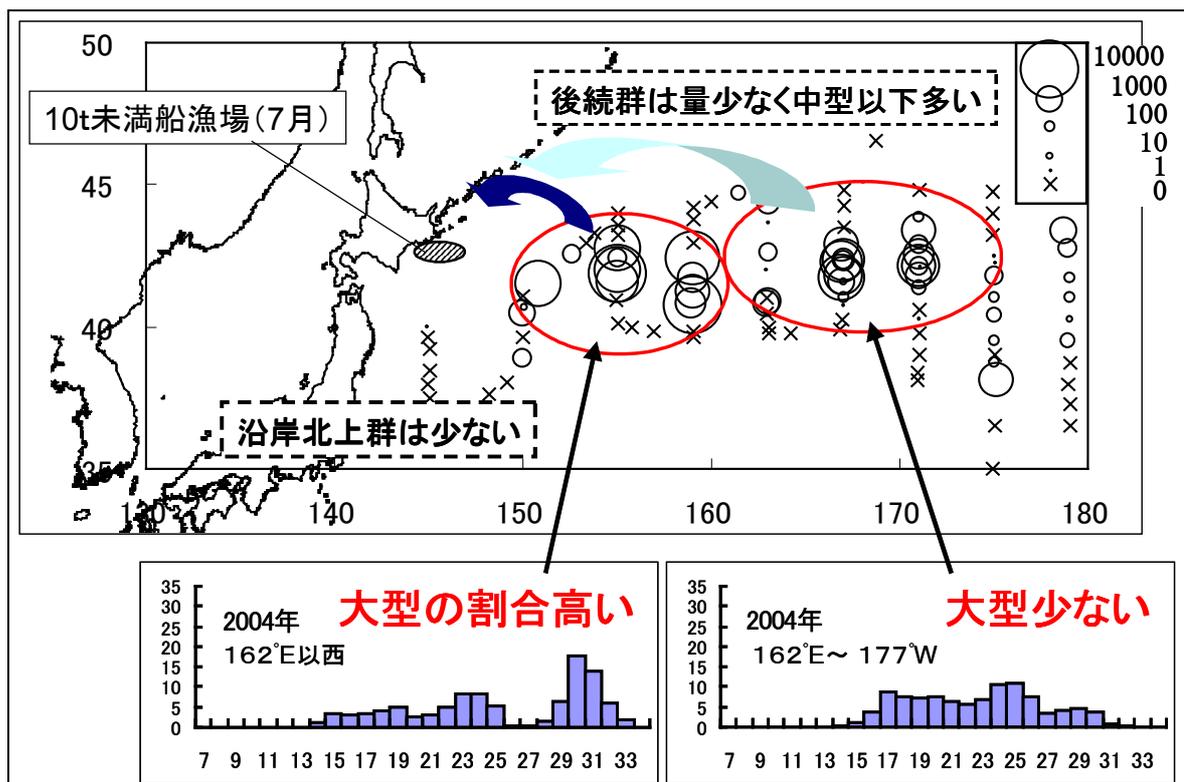


図1 2004年サンマ漁期前調査結果のまとめ。

図中の「○」は、調査点毎のサンマの採集量を示し、円が大きいほど採集量が多い。「×」は、採集がなかったことを示す。

矢印は回遊経路を示すもので、太さは来遊資源量と関係はない。

体長頻度分布のグラフは、縦軸が頻度(%), 横軸が肉体長(cm)を示す。

## 【海況予報】 (図2参照)

予測期間：2004年9月～11月

対象海域：北西太平洋

### ① 黒潮

近海の黒潮の北限位置は、やや南偏(35°N～36°N)で推移する。

### ② 黒潮系暖水

黒潮系暖水の北限位置は、近海で南寄りに推移する。

### ③ 暖水塊

釧路東南東沖合、三陸沖、金華山南東沖の暖水塊はいずれも持続する。

### ④ 親潮

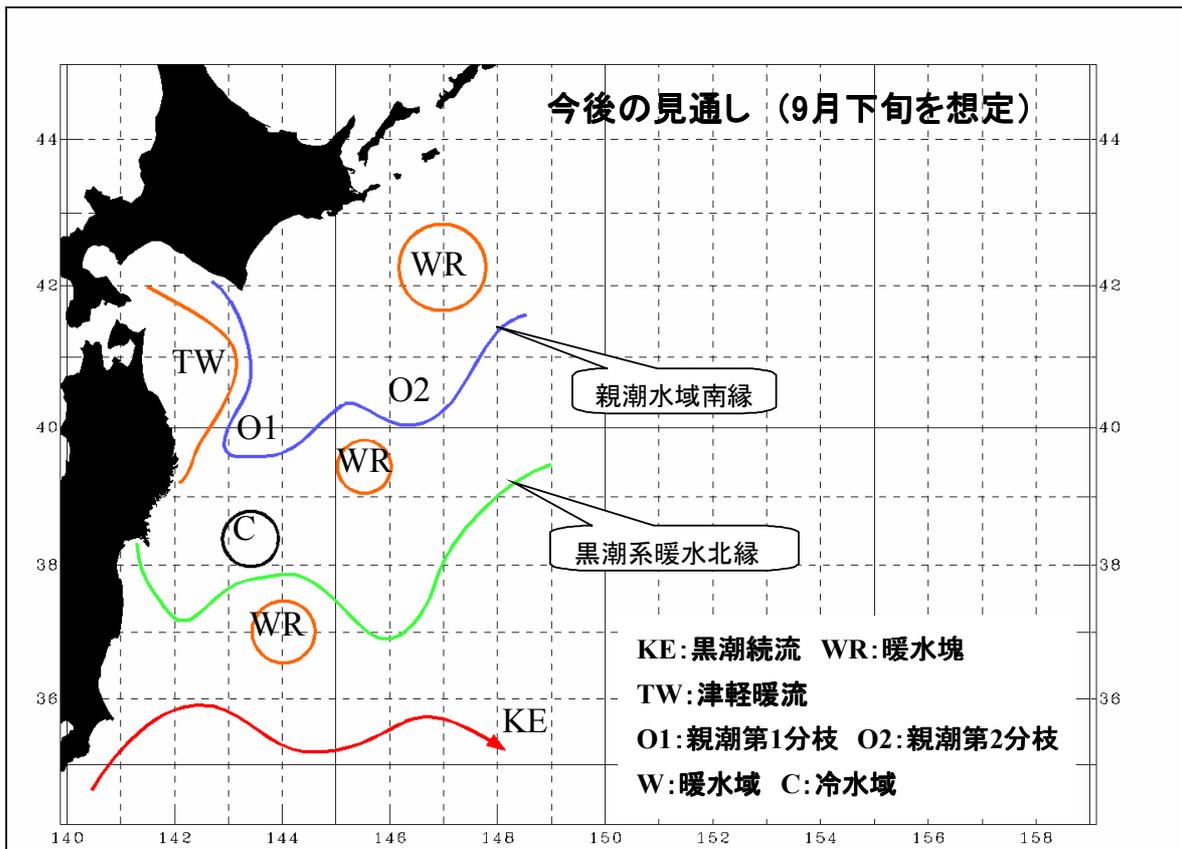
親潮第1分枝の張り出しは、平年並～やや南偏(39°30'N以北)で推移し、金華山沖～常磐近海に冷水域が残る。

親潮第2分枝の張り出しは、平年並～やや北偏(40°N以北)で推移する。

### ⑤ 津軽暖流

津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並～やや強勢(143°10'E付近まで)で推移する。

※「近海」は東経146度以西を表す。



(文責：釧路水産試験場 資源管理部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)